

1 調査目的

茨城県内では、高齢化が進み農業従事者は年々減少している。このような中、茨城県の農業を持続的に発展させていくためには、農業の担い手の育成・確保が重要な課題の1つとなっている。

このアンケート調査は、農業の担い手を育成する機関である、“茨城県立農業大学校（以下、「農業大学校」という）”の課題等を把握し、効果的な運営やPR方法を検討するために実施した。

2 結果の概要

- ・農業大学校の認知度に関しては、「名前は聞いたことがあり、どのような学校なのか知っている」、「名前は聞いたことがあるが、どのような学校なのかは知らない」を合わせた【知っている】と「知らなかった」という回答がほぼ半々であった。
また、知ったきっかけとしては「県公式ホームページ」が一番多く、次いで「家族・知人からの紹介」、「チラシやパンフレット」の順であった。
今後は、認知度向上に向け、SNS等を活用したPR活動の強化を行っていく。
- ・農業大学校の進学については、進学を「勧めたいと思う」という意見が、「勧めたいと思わない」より多い結果となった。「勧めたいと思わない」理由として、「どのようなことが学べるかわからないから」が最も多かったため、学校概要の周知を図る必要がある。
- ・農業への関心事項や担い手育成・確保に向けて取り組むべき事項としては、経営の安定化や自然災害への対策に関する意見が多かった。

【問1】（農業における担い手の育成・確保の課題）

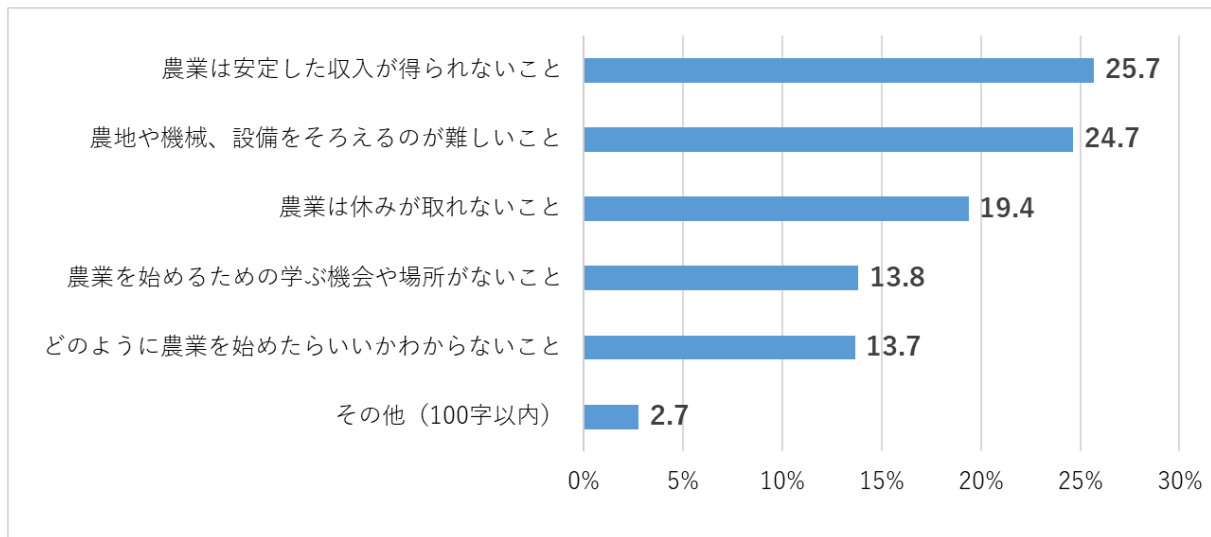
農業従事者が減少し、高齢化も進む中、茨城県の農業を持続的に発展させていくために、農業の担い手の育成・確保が重要な課題の1つとなっています。

あなたは、農業における担い手の育成・確保の課題は何だと思いますか。

あてはまるものを全て選んでください。

※この設問における「農業従事者」とは、自分自身で農業経営を行う者（家庭菜園は除く。）又は農業をしている会社や組織等で従業員として働く者を指します。

(n=3,606)



○農業における担い手育成・確保の課題は、「農業は安定した収入が得られないこと」(25.7%)が最も高く、次いで「農地や機械、設備をそろえるのが難しいこと」(24.7%)、「農業は休みが取れないこと」(19.4%)の順であった。

○「その他」(2.7%)として、次のような意見が挙げられた。(計 99 件)

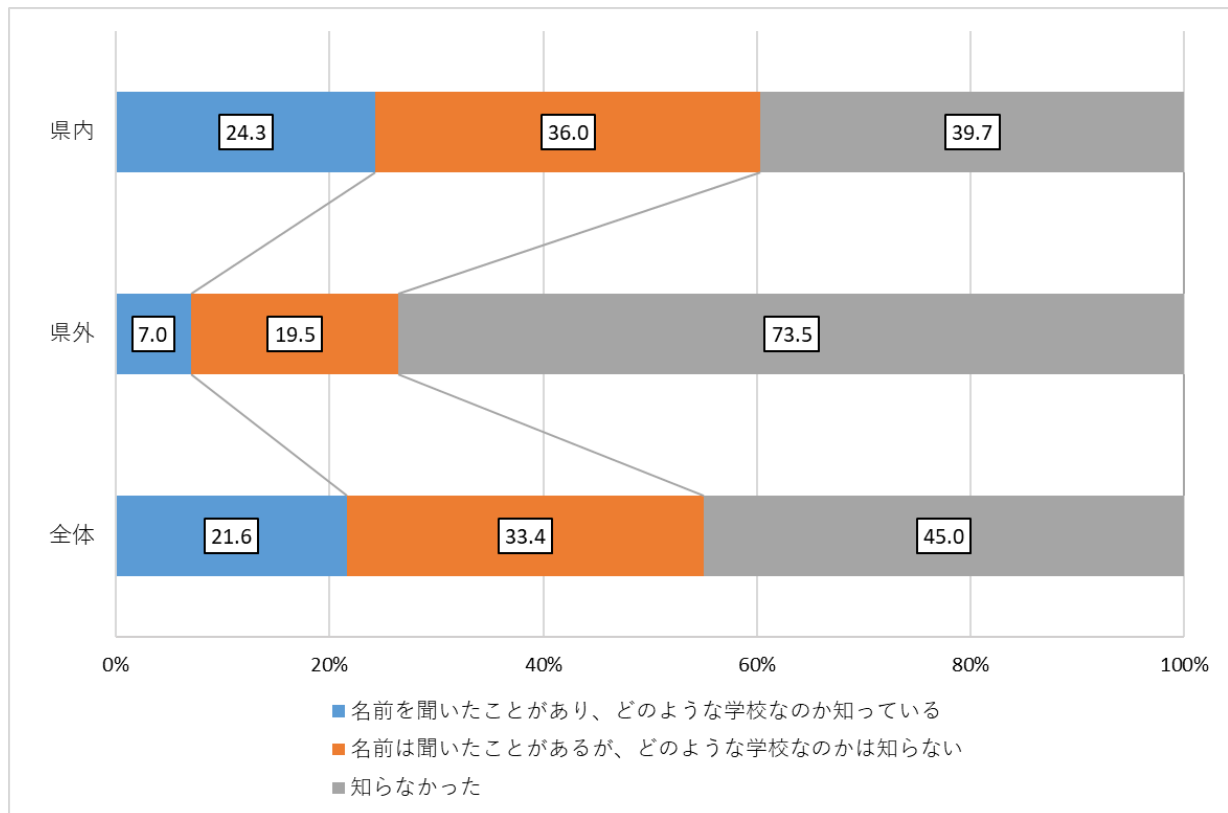
- ・個人では経営が難しいこと（法人化して規模拡大すべき）
- ・農業が実際に稼げるのか、職業としてのPRが足りない
- ・農業従事へのハードルが高い
- ・新規就農への支援の条件が厳しすぎる
- ・労働環境が悪く、体力的に不安がある

【問2】（茨城県立農業大学校の認知度）

あなたは、農業に関する幅広い知識と高度な生産技術や経営能力を持ち、農業振興に貢献する優れた農業者の育成を目的とする、茨城県立農業大学校を知っていますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

(n=1,176)



○農業大学校に関して、「名前は聞いたことがあり、どのような学校なのか知っている」(21.6%)と、「名前は聞いたことがあるが、どのような学校なのかは知らない」(33.4%)を合わせた【知っている】と回答した割合は 55.0%であり、「知らなかった」と回答した割合は 45.0%であった。

○地域で比較すると、県内では、「名前は聞いたことがあり、どのような学校なのか知っている」(24.3%)と、「名前は聞いたことがあるが、どのような学校なのかは知らない」(36.0%)を合わせた【知っている】が 60.3%であり、「知らなかった」が 39.7%であった。

県外では「名前は聞いたことがあり、どのような学校なのか知っている」(7.0%)と、「名前は聞いたことがあるが、どのような学校なのかは知らない」(19.5%)を合わせた【知っている】が 26.5%であり、「知らなかった」が 73.5%であった。

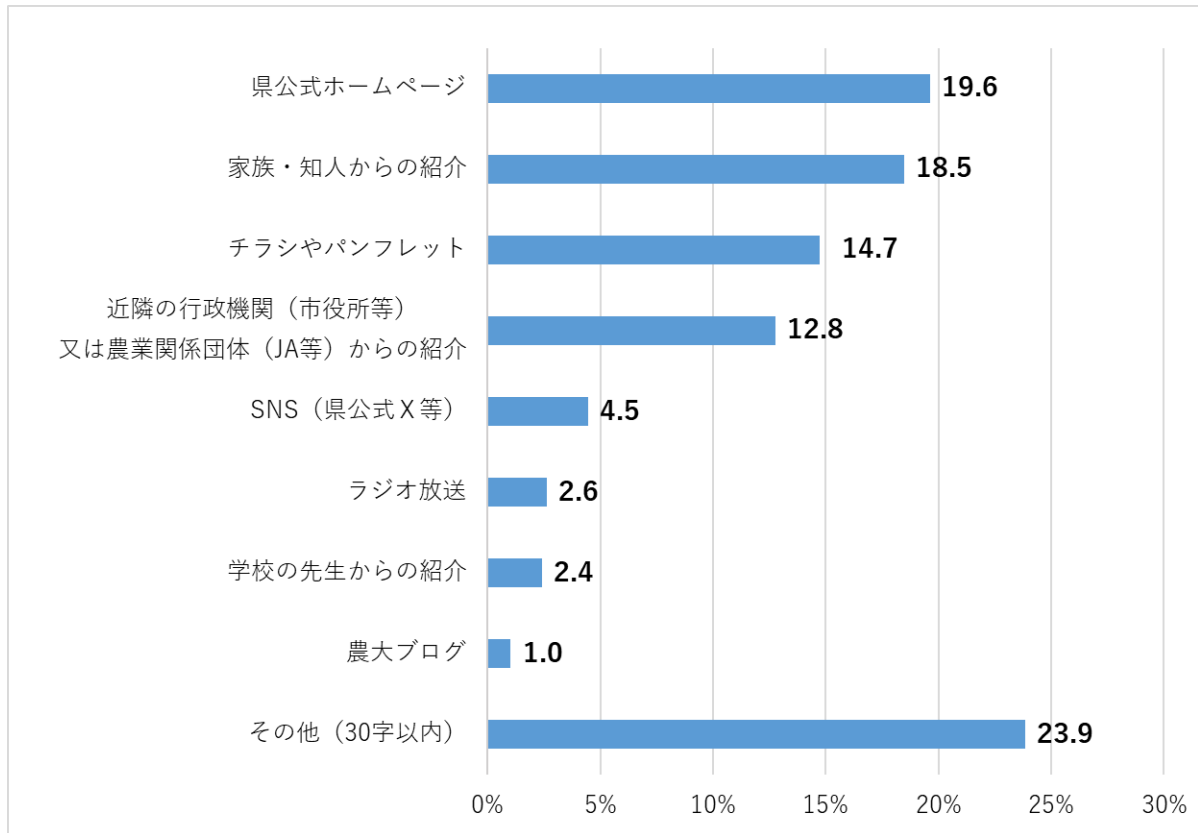
【問3】（茨城県立農業高等学校を知ったきっかけ）

（問2で選択肢1,2を選択した方へ）

あなたが、茨城県立農業高等学校を知ったきっかけは何ですか。

あてはまるものを最大3つまで選んでください。

（n=876）



○農業高等学校を知ったきっかけは、「県公式ホームページ」（19.6%）が最も高く、次いで「家族・知人からの紹介」（18.5%）、「チラシやパンフレット」（14.7%）の順であった。

○「その他」（23.9%）として、次のような意見が挙げられた。（計 209 件）

- ・近所に住んでいるためよく耳にする
- ・家族や知り合いが卒業したため
- ・県の広報誌「ひばり」や新聞記事を見た

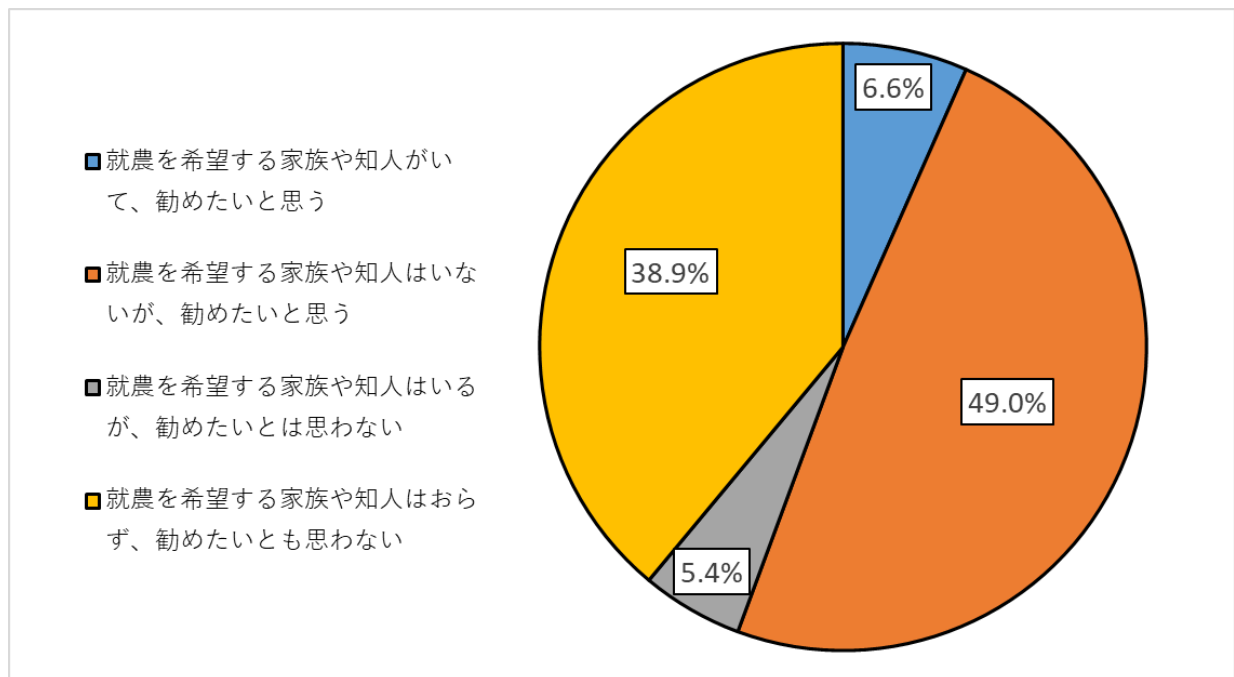
【問4】（茨城県立農業大学校への進学について）

（問2で選択肢1,2を選択した方へ）

あなたは、茨城県立農業大学校への進学を家族や知人に勧めたいと思いますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

（n=647）



○農業大学校への進学を家族や知人に勧めたいかについては、「就農を希望する家族や知人はいないが、勧めたいと思う」（49.0％）が最も高く、次いで「就農を希望する家族や知人はおらず、勧めたいとも思わない」（38.9％）、「就農を希望する家族や知人がいて、勧めたいと思う」（6.6％）、「就農を希望する家族や知人はいるが、勧めたいとは思わない」（5.4％）の順であった。

○「就農を希望する家族や知人はいないが、勧めたいと思う」（49.0％）と「就農を希望する家族や知人がいて、勧めたいと思う」（6.6％）を合わせた【勧めたいと思う】は 55.6％であった。また、「就農を希望する家族や知人はおらず、勧めたいとも思わない」（38.9％）と「就農を希望する家族や知人はいるが、勧めたいとは思わない」（5.4％）を合わせた【勧めたいとは思わない】は 44.3％であった。

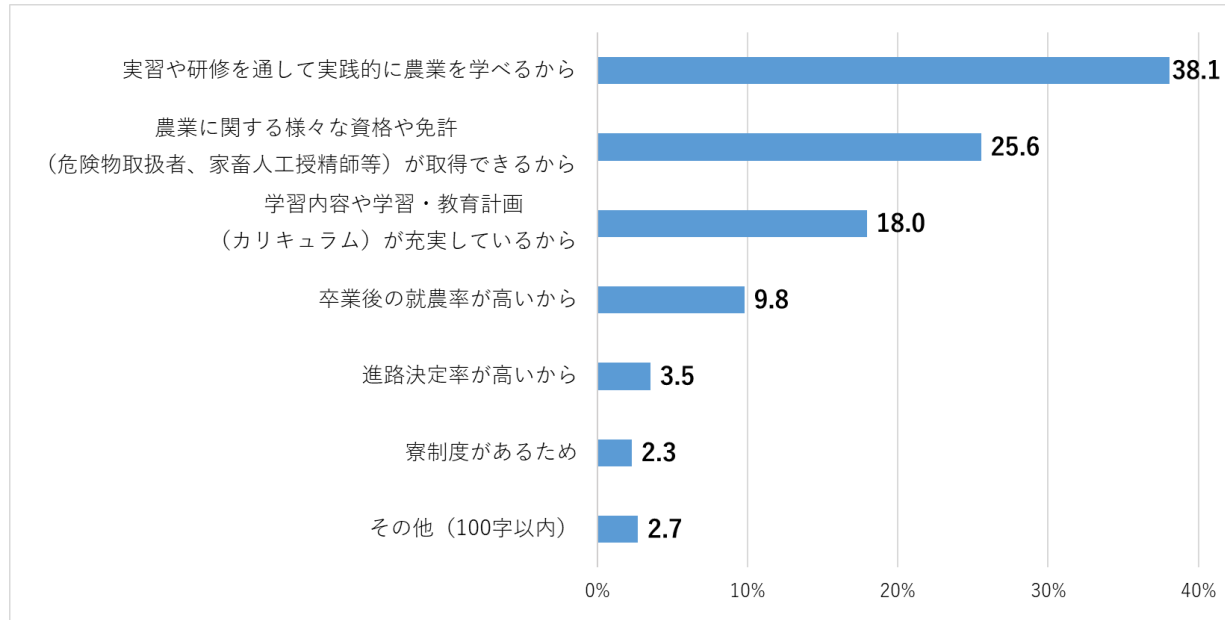
【問 5】（茨城県立農業大学校への進学を勧める理由）

（問 4 で選択肢 1, 2 を選択した方へ）

あなたが、茨城県立農業大学校への進学を勧めたいと思う理由は何ですか。

あてはまるものを全て選んでください。

（n=735）



○農業大学校への進学を勧めたいと思う理由は、「実習や研修を通して実践的に農業を学べるから」（38.1％）が最も高く、次いで「農業に関する様々な資格や免許が取得できるから」（25.6％）、「学習内容や学習・教育計画（カリキュラム）が充実しているから」（18.0％）の順であった。

○「その他」（2.7％）として、次のような意見が挙げられた。（計 20 件）

- ・ 公立であり、学費が安いから
- ・ 就農に必要な知識が学べるから

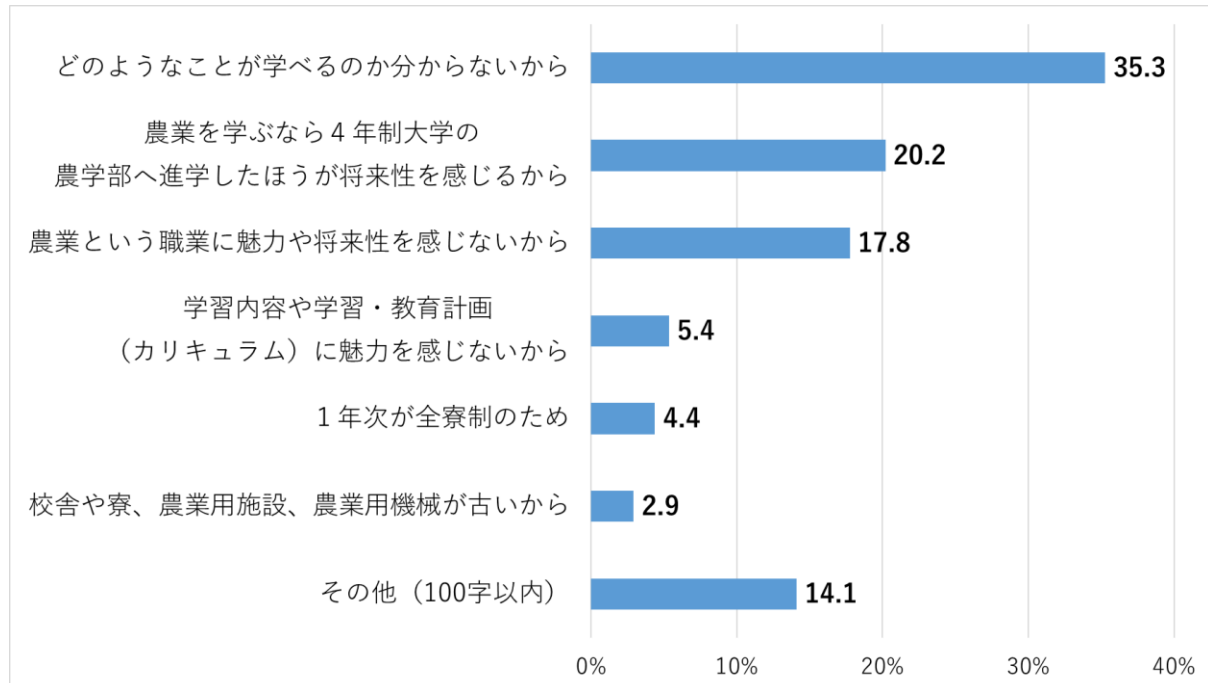
【問 6】（茨城県立農業大学校への進学を勧めない理由）

（問 4 で選択肢 3, 4 を選択した方へ）

あなたが、茨城県立農業大学校への進学を家族や知人に勧めたいと思わない理由は何ですか。

あてはまるものを全て選んでください。

（n=411）



○農業大学校への進学を勧めたいと思わない理由は、「どのようなことが学べるかわからないから」（35.3%）が最も高く、次いで「農業を学ぶなら4年制大学の農学部へ進学したほうが将来性を感じるから」（20.2%）、「農業という職業に魅力や将来性を感じないから」（17.8%）の順であった。

○「その他」（14.1%）として、次のような意見が挙げられた。（計 58 件）

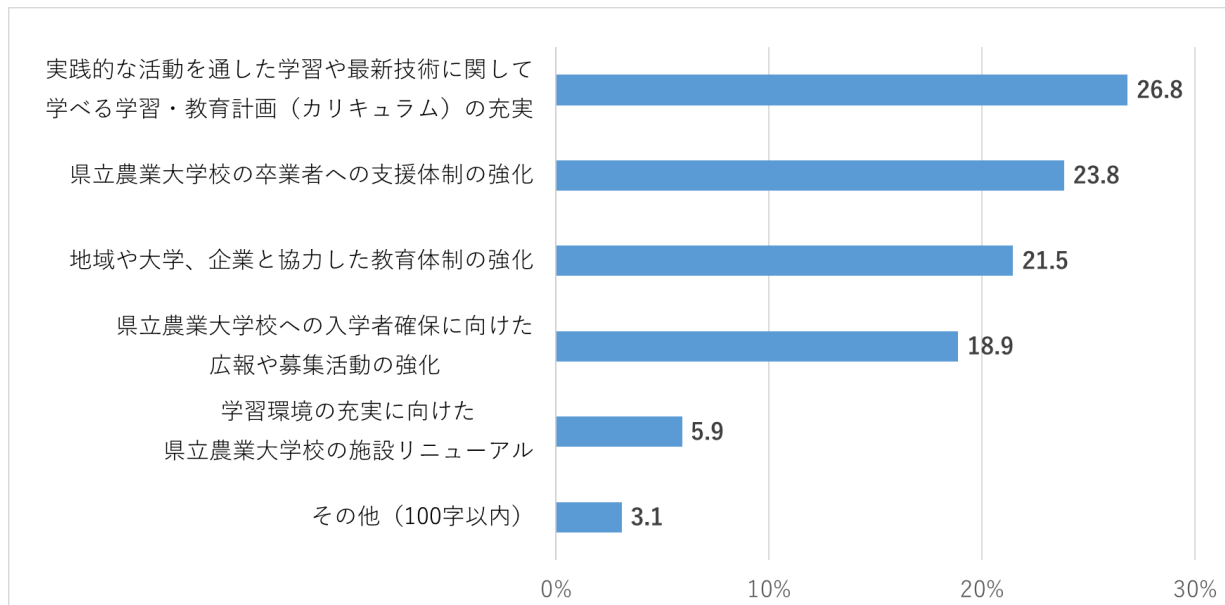
- ・高校卒業後の進学先という認識だから
- ・卒業後、就職先の選択肢が狭まることが心配だから
- ・そもそも農業で生計を立てることのハードルが高いから

【問 7】（茨城県立農業大学校が取り組むべきこと）

あなたは、農業の担い手を育成・確保するために、茨城県立農業大学校が取り組むべきことはどのようなことだと思いますか。

あてはまるものを最大3つまで選んでください。

(n=2,755)



○農業大学校が取り組むべきことは、「実践的な活動を通じた学習や最新技術に関して学べる学習・教育計画（カリキュラム）の充実」（26.8%）が最も高く、次いで「県立農業大学校の卒業者への支援体制の強化」（23.8%）、「地域や大学、企業と協力した教育体制の強化」（21.5%）の順であった。

○「その他」（3.1%）として、次のような意見が挙げられた。（計 85 件）

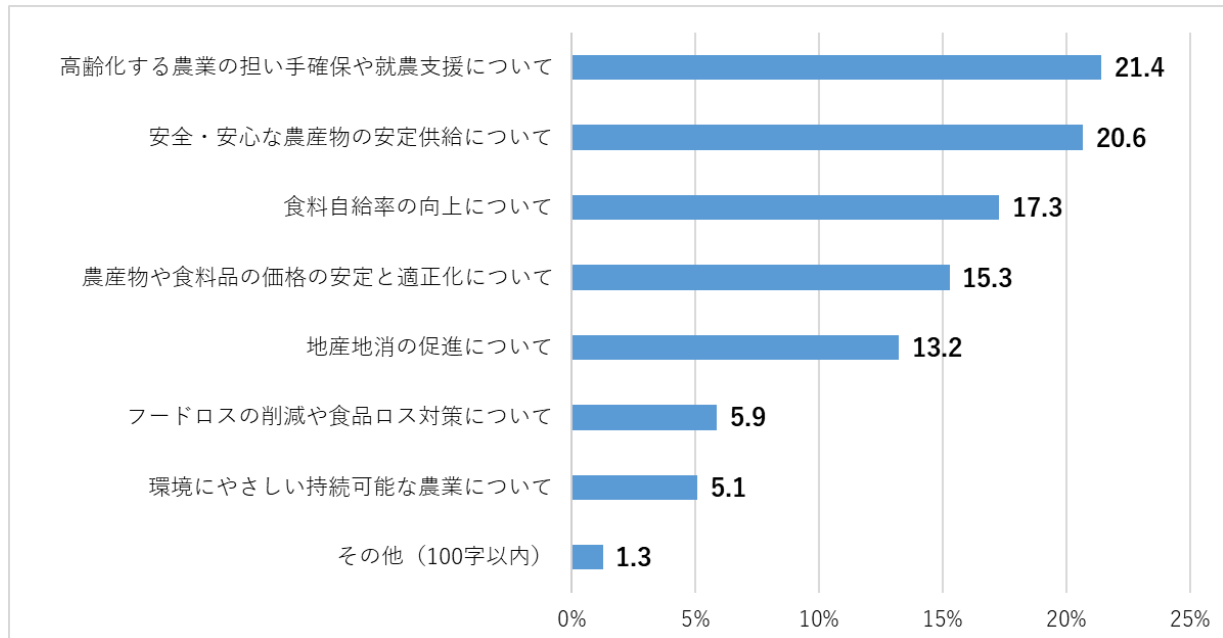
- ・経営や経済についてもしっかり学べた方が良い
- ・4年制大学との差別化が必要
- ・成功している農業者を紹介し、農業そのものの魅力を向上させること
- ・卒業生の活躍をPRすること

【問 8】（茨城県の農業への関心）

あなたは、農業に対して、どのようなことに関心がありますか。

あてはまるものを最大3つまで選んでください。

(n=3,217)



○茨城県の農業への関心事項は、「高齢化する農業の担い手確保や就農支援について」（21.4％）が最も高く、次いで「安全・安心な農産物の安定供給について」（20.6％）、「食料自給率の向上について」（17.3％）の順であった。

○「その他」（1.3％）として、次のような意見が挙げられた。（計 41 件）

- ・農業は職業としてどのくらい稼げるのか、収入は安定するのか
- ・災害時の補助金制度等農業従事者への補償について
- ・温暖化による天候の影響

【問 9】（自由記述）

あなたは、茨城県立農業大学校を多くの人に知っていただくために、どのような取り組みが必要だと考えますか。ご自由にお書きください。（500 字以内）

- ・農業大学校の概要や農業の魅力について、SNS を活用して積極的に PR する
- ・小、中、高校での出前授業や、道の駅や駅前でのイベント企画の実施
- ・農業大学校で栽培した生産物を、ふるさと納税の返礼品にしたり、地元のスーパーや道の駅に出荷したりする

など 624 件の意見があった。

【問 10】（自由記述）

農業の担い手を育成・確保するために、あなたが重要だと思うことについてご自由にお書きください。（500 字以内）

- ・ 農業の大規模化や集約化をし、個人や家族単位ではなく、企業単位で営農し、安定収入と休暇がとれる環境を整備するべきである。
- ・ 経営の安定のため、農業従事者への経済的な補償や自然災害を乗り越える技術の開発が必要である。
- ・ 新規就農のハードルを下げるため、初期投資への支援が必要である。
- ・ 小中高校時代に農業体験や農業従事者の方々の声を聞く機会が何度もあると良い。また、大人でも気軽に農業を体験できる場所を設けるなど、農業を身近に感じられるようにするべき。

など 648 件の意見があった。

3 アンケート結果を受け、今後の事業展開・アンケートの活用方法等について

- ・ 本アンケートの結果を基に農業大学校の課題等を把握し、また、効果的な運営や学生募集活動方法を検討する際の参考とする。
- ・ 県内外問わず、農業大学校の認知度は低く、知ったきっかけとしては「県公式ホームページ」や「家族・知人からの紹介」、「チラシやパンフレット」が多かった。また、農業大学校への進学を勧めたいと思わない理由では、「どのようなことが学べるかわからないから」が最も多かった。今後は、認知度向上及び学生確保に向けて、SNS による周知に加え、出前授業やイベントへ出展等による PR 活動の強化を検討していく。
- ・ 農業全体の担い手確保については、実際に就農し生計を立てられるかどうかや、新規就農に伴う困難など、農業の職業としての将来性についてを問題とする意見が多かったため、農業の魅力や先進事例等について、広く知っていただく機会を検討していく。

4 調査の概要

(1) 調査形態

調査時期：2025年7月15日～2025年7月28日まで

調査方法：インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答

モニター数：1,661名

回収率：70.8%（回収数 1,176 名）

回答者の属性：以下の通り

		人数（人）	割合（％）
全体（n）		1,176	100.0
地域別	県北	96	8.2
	県央	369	31.4
	鹿行	68	5.8
	県南	367	31.2
	県西	91	7.7
	県外	185	15.7
性別	男性	507	43.1
	女性	669	56.9
年齢別	16～19 歳	8	0.7
	20～29 歳	51	4.3
	30～39 歳	160	13.6
	40～49 歳	287	24.4
	50～59 歳	321	27.3
	60～69 歳	226	19.2
	70 歳以上	123	10.5
職業別	自営業	93	7.9
	会社員	461	39.2
	団体職員	53	4.5
	公務員	52	4.4
	主婦・主夫	232	19.7
	学生	20	1.7
	無職	144	12.2
	その他	121	10.3

(2) 担当課

茨城県農林水産部農業技術課（研究・普及グループ）

電話：029-301-3936

E-mail：noseisaku4@pref.ibaraki.lg.jp

（注）割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の割合の合計と全体を示す数値が一致しないことがある。

また、図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。